



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

## 葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.60 絵と文 群馬直美

### シーボルト通信《サザンカ》

12月のビオトープ園に、燃え上がる情熱の炎みたいな紅い花が咲いた。

つやつやの深い緑色の葉っぱに囲まれた花だ。

立川のアトリエで、机の上に白いパネルを立て花瓶に入れた吸水スポンジに、頂いてきた枝を挿す。

手前の枝の葉っぱが花を隠してしまう。小枝を2本切り落とす。

すると、ふっくらと微笑む紅い花が、富士山の雄姿の如くどどんと現れた。

「おおっ、これは美しい！」

美術作品を思わせる佇まい、リズムカルに小枝に付いた葉っぱたちが

絶妙な奥行き感を作り出す様子に、息を呑む。

この完璧さを私はどこかで見たことがある…。 そうだ、あれだ！

書棚から『シーボルト「フローラ・ヤポニカ」日本植物誌』（八坂書房）を引っ張り出す。

ページをめくると、あった、あった！ サザンカ。

5枚の花弁の紅い花が、正面からのと横からの、ふくらんだつぼみ7個が、

律動的に枝に付いた葉っぱと共に描かれている。右下には白い花。

線画でオシバやメシバ、実の構造図も。この絵を1枚見れば、サザンカの全てがわかる。

なんと気持ちのよい絵なんだろう。

シーボルトは日本人絵師に植物の特徴を捉えた絵を伝授し、『日本植物誌』の元となる資料画をたくさん描かせた。

それから150年～180年経った今、私は立川のアトリエでサザンカの絵を描いている。

最新機器の顕微鏡モード付きのデジタルカメラを駆使し、資料写真を撮って。

思えば、1枚の葉っぱを原寸大でありのまま忠実に描くことから始まった私の葉っぱの旅。

こんなにたくさんの葉や冬芽、花まで宿した状態の枝振りに心をときめかせ描くことになるうとは、想像だにできなかった。

それぞれの葉っぱの縁の細かなギザギザが、「これでもか！ これでもか！」と私に襲いかかる。

撮影した拡大写真を見ると、ギザギザの一つ一つの先端に小さな黒いトゲのようなものが付いている。

肉眼ではよく見えないが、虫メガネで見てみると微かに見える。

トゲを描くかどうか…。 私は意を決して絵筆を握った。

もし描かなかったら、今際の際できっと私は言うだろう。

「サザンカの葉っぱの縁のギザギザには、黒いトゲがある」と。

シーボルトさん、2022年の日本で最もよく見かけるサザンカの花は、これですよ。

## 表紙の絵「サザンカ」

ふっくらと微笑む紅い花。

- ・紙（ファブリアーノ エキストラホワイト極細目）/テンペラ
- ・size:410mm×320mm
- ・2021.12.27完成
- ・ヤマトビオトープ園にて12.10採集
- © Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2022年2月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp](http://www.yamato-se.co.jp)

### 群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>